



『愛のオリンピック』のメダリスト

エリック・リデルの

愛と祈り

オリンピックの話題が出る^{わだ}とよく流れる^{なが}のが、ロンドン・オリンピックの入場^{にゆうじょうこうしん}行進^{ひようしやうしき}や表彰^{かいがんせん}式でも使われた、映画『炎のランナー』のテーマソングと、海岸線^{かいがんせん}を走るランナーたちのシーンです。1981年にイギリスで公開^{こうかい}され、第54回アカデミー賞^{あかだいていしょう}を受賞^{じゆうしょう}した『炎のランナー』は、イギリスのオリンピック選手^{せんしゆだん}団にいた二人の選手^{せんしゆ}の人生を描^かいています。

主人公^{しゆじんこう}のエリック・リデル^{りくじやう}は、スコットランドの陸上選手^{せんしゆ}で、1924年のパリ・オリンピックで金メダル^{きんめだる}を獲得^{かくとく}し、英国^{えいこく}で最も速^{もつ}い男^{おとこ}として有名^{ゆうめい}になりました。しかし、エリックが国民的ヒーロー^{こくみんてき}にまでなったのは、金メダル^{きんめだる}を獲得^{かくとく}したからだけではありません。メダリスト^{めだりすと}となるまでの経緯^{けいゐ}と、その後の彼の人生^{じんせい}が、多くの人^{おほく}にとって予想^{よそう}外^{がい}のものであり、また感動^{かんとう}を与^{あた}えたからなのです。私はこの映画^{えいが}を何度か見^みていますが、ある時^{あるとき}、映画^{えいが}には描^かかれていない彼の晩年^{ばんねん}について知り、とても驚^{おどろ}きました。彼の日本^{にっぽん}への深い愛^{あい}が、後世^{こうせい}に影響^{えいきやう}を残^{のこ}していることを知^しったからです。

エリックは400m走^{かくとく}で金メダル^{きんめだる}を獲得^{かくとく}しましたが、もともと彼は100m走^{せんもん}、200m走^{せんもん}を専門^{せんもん}とし、400m走^{せんもん}に出^いる計画^{けいかく}はしていませんでした。ところが、オリンピックの数^{かず}か月前^{げつまえ}になって、100m走^{よせん}の予選^{よせん}が日曜日^{にちようび}に行^いわれることを知^しったエリックは、100m走^{せんもん}を断念^{だんねん}し、代わりに別の曜日^{べつのにち}に行^いわれる400m走^{せんもん}に出^いることにしたのです。

安息日^{あんそくにち}である日曜^{にちようび}には競技^{きやうぎ}をしないというのが、彼のクリスチャンとしての信念^{しんねん}だったからです

彼は、オリンピック委員会^{いいんかい}の要人^{ようじん}や皇太子^{こうたいし}から、祖国^{そこく}のため出場^{しゆつじやう}するよう命^{めい}じられていましたが、国家^{こっか}の名誉^{めいよ}のためよりも、神^{かみ}の栄光^{えいこう}のために走るとい^いう彼の選^{せん}択^{たく}は、新聞^{しんぶん}でも大^{おほ}きく報^{ほう}道^{どう}され、国中^{くにじゆう}にセンセーション^{せんせあしょん}を巻^まき起^{おこ}しました。

エリックは400m走^むに向けて猛練^{もうれん}習^{しゆう}を始^{はじ}めました。が、誰も金メダル^{だれ}は予想^{よそう}していませんでした。この種目^{しゆもく}は初出^{はつしゆつじやう}場^{ばう}であり、一番外側^{そとがわ}のコース^{こうす}を走るとい^いう不利^{ふり}な条件^{じやうけん}だったからです。しかし予想^{よそう}に反^{はん}し、エリックは47.6秒^{せかいしんきろく}という世界新記録^{せかいしんきろく}を出^いして金メダル^{きんめだる}を獲得^{かくとく}しました。

ところで、エリックはどうしてそれほど安息日^{あんそくにち}にこだわ^たったのでしょうか。エリックは宣教師^{せんきやうし}として中国^{ちゆうごく}で暮^くらす両親^{りやうしん}のもとに生まれ、両親^{りやうしん}が子どもたちを母国^{ぼこく}の学校^{がく}に通^{かよ}わせることにしたため、5歳^{ごさい}の時^{とき}からは親元^{おやもと}を離^{はな}れて暮^くらし、親^{おや}に会^あえるのは年^{ねん}に数回^{すうかい}だけだったそうです。しかし、両親^{りやうしん}によって蒔^まかれた信仰^{しんこう}の種^ねは、エリックの心^{こころ}に深く根^ねを下^おろしました。安息日^{あんそくにち}の厳守^{げんしゆ}についてはクリスチャンの間^までも意見^{いけん}が分^わかれますが、大切^{たいせつ}なのは、エリックが自^{みづか}らの信念^{しんねん}と個人的確信^{こじんてきかくしん}を貫^{つらぬ}いたということです。

さて、金メダル^{かくとく}を獲得^{かくとく}し、大学^{そつぎやう}を卒業^{そつぎやう}したエリックは、やはり自^{みづか}らの確信^{かくしん}にそつて、スポーツ界^{かいくん}に留^かまるかわりに宣教師^{せんきやうし}となることを選^{えら}びました。そして、中国^{ちゆうごく}に渡^{わた}って神^{かみ}の愛^{あい}を伝^{つた}えることに一生^{いっしやう}を捧^{ささ}げること^{こと}を決^{けつ}意^いしたのです。

エリックはカナダ人の妻^{つま}を迎^{むか}え、三人^{むすめ}の娘^{さす}も授^さかりました。ところが、1931年に満州事変^{まんしゆうじへん}が勃^{ぼつ}発^{ぱつ}し、中

国は外国人にとって危険な場所となっていました。本国からは中国を出るようという退避勧告も出されましたが、エリックは妻と娘たちだけをカナダに帰国させ、自分は中国に残ることにしました。

その後、1943年、エリックは日本軍によって山東省の収容所に抑留され、1945年には脳腫瘍を患って43歳の若さで天に召されたのです。それは終戦も間近で、もうすぐ家族と再会できるという時でした。実は、エリックには一度、釈放される可能性があったのですが、収容所内に妊婦がいることを知った彼は、自分の代わりにその女性を釈放させたのです。

収容所にいながらも、彼の影響は外へと広がっていきました。収容所でエリックは、戦争で親と離れ離れになってしまった子どもや若者たちに聖書のお話を聞かせ、彼らの友となり、父親のような存在となりました。

そんなある日のこと、一つの議論が持ち上がりました。聖書にある「汝の敵を愛せよ」というイエスの教えは、ただの理想なのか、それとも実行すべき現実的な教えなのかという議論です。若者たちは、「そんなのは理想に過ぎない。日本兵を愛することなんかできるはずない」と主張しました。日本兵による中国人への仕打ちはむごいもので、毎日のように見るに耐えない残酷な光景を目にし、日本人に対する憤りや憎しみを募らせていたからです。

そんな中に、イギリス人宣教師の子で当時高校生だったスティーブン・メティカフという青年がいました。メティカフも、「敵を愛しなさい」という言葉に反感を覚え、日本兵など愛せるはずがないと感じていました。するとエリックが、こう話したのです。

「私もそう感じたが、聖書には、『迫害する者のために祈りなさい』とある。ぼくたちは愛する者のためなら、頼まれなくても時間を費やして祈るが、イエスは、愛することのできないような者のために祈れと言われた。だから、君たちも日本人のために祈ってごらん。人を憎むと、自分中心の人間になる。でも祈るなら、神中心の人間になるんだ。神が愛している人を、憎んではいけない。祈りは、君たちの姿勢を変えるんだ。」

そしてエリックは、説教するだけではなく、自らも毎朝15分早く起きて、日本の国と日本人のために祈

りました。そんなエリックの姿に、少年たちの心は少しずつ変わっていきました。メティカフも、エリックをクリスチャンとして、またスポーツマンとして尊敬していたため、彼の言う通り日本兵のために祈り始めました。

しかし、祈っても祈っても、日本兵の振る舞いは変わりません。

ところが、メティカフの心は変わっていったのです。以前は日本兵には憎しみしか感じなかったのに、次第にこんな風に思うようになりました。

「これが、戦争というものなんだ。兵士たちは、死に慣れっこになり、命の価値が分からなくなっている。それに彼らは、人間が神に造られた大切な存在であることも知らない……。だから、あんなことをしてしまうんだ。」

そして、一日も早く、日本兵が神様の愛と命の大切さに気付くことを願うようになったのです。エリックが収容所の中で天に召された時、メティカフはエリックの棺を担ぎながらこう決意しました。「もし生きてこの収容所を出られる日がきたら、僕は宣教師になって日本に行きます。」

実際スティーブン・メティカフは、第二次世界大戦後に日本に来て、38年間、東北や北海道で神の愛と平和を宣べ伝えました。彼が日本に来る時に乗った船には、朝鮮戦争に向かうイギリス兵もたくさんいましたが、その兵士たちに、彼はこんな説教をしたそうです。

「あなた方は平和のためと、銃を持って韓国に向かっていますが、私は聖書を持って日本に向かいます。戦争が終わっても、日本にはまだ平和が訪れていないからです。私は聖書を教えます。イエス・キリストこそが、平和の君だからです。」

このように、エリックのゆるしのメッセージを聞き、その祈りの姿を見た青年たちは、後に、日本やその他の国々に出て行き、愛によって世界を変えていったのです。エリック自身は一度も日本の地を踏んだことはありませんが、彼の祈りは日本の多くの人々の心にまで届いたのです。彼は地上のオリンピックで金メダルを獲得しただけでなく、人生という『愛のオリンピック』でのメダルを、天国で受け取っているに違いありません。

小中高生勉強、パソコン教室、アコースティックギター教室もお問い合わせください。(^^)/

土山みことばキリスト教会(単立プロテスタントキリスト教会)

- ・主日礼拝 日曜日 午前10:30～(昼食あり)
- ・聖書の学び 水曜日 午後7:00～(時間相談)

〒674-0094 明石市二見町西二見1993-7(1階)(JR土山駅 南東へ徒歩6分、田中医院さんのとなりです) 電話: 079-422-4557 メール: tsuchiya.gospel.christ.church@gmail.com

